

2026年度 日本工学院八王子専門学校											
建築学科											
卒業制作 2											
対象	4年次	開講期	後期	区分	必	種別	実習	時間数	240	単位	8
担当教員	根本 毅			実務 経験	有	職種	建築設計				
授業概要											
4年間学んだことを基礎にして各種建築物等の設計を中心にまとめます。											
到達目標											
卒業制作1で蓄積した調査・研究・スタディを基に、図面・模型・パース等を用いて建築作品としてまとめ上げ、外部に向けて自らの建築観と提案内容をわかりやすく伝えられる力を身に付ける。											
授業方法											
スタジオ形式で各自の計画案に対して個別指導と講評を行い、途中発表や最終公開講評を通して図面・模型・プレゼンテーションを磨き上げながら、制作プロセス全体を自律的にマネジメントさせる。											
成績評価方法											
最終成果物・プレゼンテーション60%、途中の中間発表・講評への対応20%、制作プロセス・取り組み姿勢10%、出席10%を目安に総合評価し、重大な遅延や提出物不備がある場合は減点・不合格となることがある。											
履修上の注意											
原則として卒業制作1の単位取得者を対象とし、自主的な作業時間の確保が必須であるため、バイトや他科目との両立を含めて時間管理を徹底し、締切と提出形式を厳守するプロ意識が求められる。											
教科書教材											
特定の教科書は定めず、各自のテーマに応じた参考文献・作品集・論文・資料に加え、卒業制作1で作成した調査レポートやスタディ資料を主要な教材とし、教員配布のフォーマットや図面作例を適宜参照する。											
回数	授業計画										
第1回	ガイダンスとして卒業制作2の目的・年間スケジュール・評価方法・提出物の条件を説明し、卒業制作1の成果を振り返りながら、最終的なテーマと目標像を各自再確認する。										
第2回	卒業制作1の調査・コンセプト・スタディを整理し直し、卒業制作2で作成すべき図面・模型・パース・テキストの一覧と締切を決め、個人別の制作計画表に落とし込む。										
第3回	配置・ボリューム・平面・断面の関係を中心に計画案を再構築し、動線・ゾーニング・構造・設備の大枠を押さえつつ、縮尺のある図面として成立するレベルまで設計を一段階深める。										

第4回	平面計画の詳細検討として、各室の寸法感覚・家具配置・光や視線の抜けをスケッチや簡易模型で確認し、使用者の体験をイメージしながら空間のメリハリとシークエンスを整理する。
第5回	断面・立面の検討を行い、天井高さやレベル差、光の取り入れ方、構造フレームの表し方などを検討し、平面図との整合を取りながら建築の「断面で語る」力を鍛える。
第6回	構造・設備の考え方を整理し、構造形式やスパン計画、主要配管や空調方式などを図面上に落とし込み、意匠と技術のバランスを取りながら、実現可能性のある計画へと精度を高める。
第7回	1/200～1/100程度のスタディ模型を制作して全体のボリュームと空間構成を確認し、光・抜け・プロポーションを立体的に検証しながら、プレゼン用模型の構成も検討し始める。
第8回	中間発表準備として、配置図・平面図・断面図・簡易立面・コンセプトシート・写真付き模型などを一通り揃え、パネル構成と発表スライドの骨格を作成し、リハーサルを行う。
第9回	中間発表として各自が現時点の図面・模型・コンセプトをプレゼンし、教員およびクラスメイトからの講評・質疑を受けて、作品の強みと弱点、残り期間で優先して深めるべきポイントを明確にする。
第10回	中間講評で指摘された内容を反映し、計画の矛盾修正や空間の質の向上を図りながら、最終図面の縮尺・枚数・情報量を確定し、線の整理や表現方法の統一を進める。
第11回	プレゼンテーション用模型の本制作を行い、ベースや植栽・人形などの付帯要素も含めて、コンセプトや空間の特徴が一目で伝わるような見せ方やカメラアングルを意識して仕上げていく。
第12回	パース・ダイアグラム・コンセプトシートなどビジュアル表現を充実させ、素材感や光の雰囲気、利用者の姿が伝わる表現を整えながら、パネル全体としてのストーリー性と読みやすさを高める。
第13回	最終講評に向けたリハーサルとして、制限時間を意識した口頭発表と質疑応答の練習を行い、話す順番やキーワードを絞り込み、聞き手に伝わりやすいプレゼンテーション技術を身に付ける。
第14回	最終発表会として外部講師を含む講評者の前で作品を発表し、講評を通して自分の提案の位置付けや可能性、今後の課題についてフィードバックを受け、建築家としての次のステップを意識する。
第15回	授業全体の振り返りとして、卒業制作1・2を通じた学びと自己評価をレポートにまとめ、作品の写真・図面・テキストをポートフォリオに整理し、進学・就職活動にどう活かすかを明文化する。